## 3年目のコロナ禍での2022年春闘

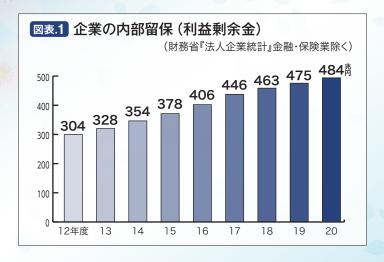
## 夏地で選択

新型コロナウイルスは次から次への変異種を伴いながら世界中で感染拡大を続け、依然として人々の往来を抑制し、観光・飲食・鉄道・航空など特定の産業に大きな打撃を与えています。さらに、2回目のワクチン接種まで進んだものの、オミクロン株で過去最多の感染再拡大となり、感染症の解明、治療薬の普及はいまだ道半ばの状態です。

一方、我慢を強いられている勤労者家計は長期にわたり低迷し、脆弱なセーフティネットにより、有期・短時間・契約等労働者の生活が深刻な影響を受けていますが、とりわけ、非正規雇用の約7割を占める女性労働者の雇用の不安定さや生活面への影響が大きいこと

が指摘されています。

こうしたなか、財務省が昨年9月1日に発表した2020年度末の法人企業統計は、企業が蓄えた内部留保に当たる利益剰余金が前年度比2.0%増の484兆3,648億円となり、9年連続で過去最高を更新しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて経常利益は減少しましたが、景気の先行き不透明感を背景に企業が投資を抑制し、さらに内部留保が積み上がりました。一方で労働者の実質賃金は低下傾向に歯止めがかかっていません。今こそ大企業は内部留保を社員の賃上げに還元し、国内総生産の約6割を占める個人消費を拡大させるべきです。





## 定期昇給の完全実施と

## 6,000円のベア実施を求めます

2 022年春闘は、生活の底支え、底上げをめざし、 国民すべてが安心して暮らし、働ける社会を実現するため、医療・介護・教育・保育従事者をはじめ、国民の日常生活を支えるライフラインや社会インフラで働くエッセンシャルワーカーの処遇改善がとりわけ重要な課題です。 私たちは J R の安全・安定輸送の確立と J R とグループ会社に働く労働者の労働条件・処遇改善に全力をあげながら、定期昇給の完全実施と6,000円(平均基本給の2.2%相当額)のベア実施を求めてすべての働く仲間の「格差是正」と暮らしの「底上げ」を求めて2022年春闘に取り組む決意です。